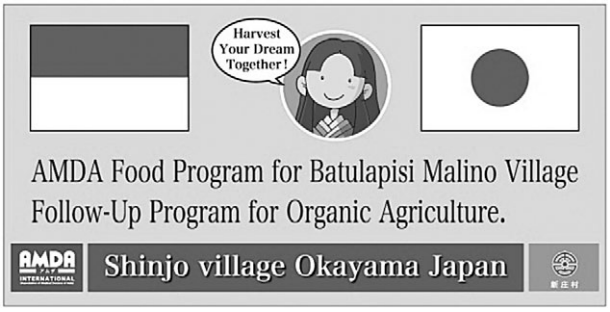
NPO法人アムダと協働する有機農業技術海外研修
～自治体とNPOの協働による アジアへの有機農業技術移転プログラム～

岡山県真庭郡新庄村
認定特定非営利活動法人AMDA（アムダ）

有機農業技術移転プログラム スタート

岡山県真庭郡新庄村と認定特定非営利活動法人AMDA（アムダ）が協働で、クレアの助成を受け、アジアへの有機農業の技術移転を目的としたプログラムを実施しました。対象としたのは米食文化の国インドネシアで、「インドネシアの米蔵」と呼ばれているスラウェシ島にあるマリノ村。マリノ村から新庄村へ研修生を招へいし、半年間の研修を終えたのち、マリノ村への技術者の派遣を行い、マリノ村において有機農業の実践がスタートを切りました。



マリノ村に掲げられた有機農業実践圃場の看板

自治体とNPOの連携が必要不可欠

新庄村は、岡山県の西北端に位置し、自然豊かな山間部にある村で、2010年に制定した「アジア有機農業プラットフォーム推進条例」をきっかけに、村をあげて有機農業に取り組み、アジアへの有機農業推進を目指しています。一方で、岡山に本部を置き、アジア各地で多くの活動経験を持つ国際医療NGOであるアムダは、2011年から新庄村野土路地区で「食は命の源」をコンセプトに、アジアへの有機農業の技術移転を目指して有機農業プロジェクトをスタートしました。同じ目標のもと、自治体の持つ公共性や住民とのネットワーク、NGOの持つ専門性や草の根の支援体制を連携することで、それぞれの強みが生かされ、世代を超えた多くの方に参加、協力していただくことができました。また、今後のモニタリングにおいても、中長期での継続が可能となります。

AMDA野土路農場（新庄村）

インドネシアからの研修生、新庄村で有機農業を学ぶ

インドネシア・スラウェシ島マリノ村在住の農業者２人の研修生を、田植えの時期から収穫までを経験できるよう、４月から10月まで招へいしました。研修地となったＡＭＤＡ野土路農場（新庄村野土路地区）での有機・あひる水稲同時作農業を用いた稲作のほかにも、村内の有機農業技術者らの協力を得て野菜づくりや花づくり、有機農業の基礎となる、土づくり、炭づくりなどの研修も取り入れ、有機農業の基礎となる研修を実施しました。さらに、多くの村内にある任意団体や住民の協力を得て、報告会の実施、地域のお祭りへの参加、保育所や小学校などとの交流なども実現し、研修生にとって経験の場だけでなく、住民の方々にとっても異文化交流の貴重な時間となりました。

初めての田植え機を使って稲作をする研修生

マリノ村へ新庄村から有機農業指導者派遣

２人の研修生が帰国後、日本での経験を踏まえて、マリノ村バトラピュシ地区で、圃場を確保し11月から徐々に有機農業を実践しています。そこで２月中旬に１週間の行程で新庄村から１人、アムダから１人が圃場を訪れ、研修生のフォローアップと村内での有機農業実践指導を行いました。主に、有機農業の基本となる土づくりに必要な炭づくり、堆肥づくり、焼きすくもづくり、大豆の試験栽培などのワークショップを行いました。また、研修生たちが実践している圃場についてのアドバイスや、現状の視察およびヒヤリングなどを行いました。これまでに直接的な農業の指導を受けた経験のある住民がほとんどいなかったため、悪天候にもかかわらずワークショップには30人弱の農家の方が参加し、いずれも積極的な質問が飛び交いました。

マリノ村で焼きすくもづくりの実演

研修終了後、マリノ村からのたより

現在はアムダを通じて、マリノ村からインターネットを使って、圃場の状況、稲や野菜の生育状況が１週間に１回程度、写真付きで届いています。その写真をもとに、アムダと新庄村でアドバイスを行い、モニタリングを続けています。

次の一歩、次のステップへ

2013年度に実施した本事業はマリノ村での有機農業技術移転の、最初の一歩を踏み出したばかりです。今後は、３年をめどに、土壌の改良、苗づくりの指導、水の活用方法の指導など、有機農業の基本となる部分の指導をインターネットだけでなく、直接指導なども含めて行っていく予定です。単に有機農業の実践だけに注目するのではなく、収穫量の増加と、住民の健康増進も視野に入れた有機農業の推進を実践していく予定です。